

## 6月CPは大幅下げへ P430<sup>ドル</sup>・B415<sup>ドル</sup>を予測 原油急落で一段安もありうる

### 1. <下げ足急な国際市況>

LPガスの国際市況が5月入り後大幅に値下りしている。原油市況が、米国が仕掛けているかに見える「イランと米国あるいはサウジとの政治的緊張関係の高まり」を背景に上昇基調にあるのとは裏腹に、LPガス市況は国際的な需要のボトムである7月が近づき下げが続いている。極東市場では下げが鈍いものの、中東・米国・欧州市場は下げが顕著だ。これを受けて6月CP予測も大きく下げている。5月第2週後半には、「プロパン490<sup>ドル</sup>・ブタン470<sup>ドル</sup>台半ば」あたりを予測する元売・商社が多かったが、第4週前半には「プロパン450<sup>ドル</sup>・ブタン430<sup>ドル</sup>」予測も出始め、後半になると「プロパン430<sup>ドル</sup>台半ば・ブタン420<sup>ドル</sup>」まで下方修正された。元売1社がそうだというのではなく、元売・商社数社が予想以上の市場軟化に戸惑っている。

### 2. <中東CP先物市場>

5月第2週の中東CP先物市況は、プロパンが460<sup>ドル</sup>、ブタン440<sup>ドル</sup>であったが、第3週後半にはそれぞれ448<sup>ドル</sup>、426<sup>ドル</sup>となった。第4週に入ると連日の大幅下げで23日現在、プロパン435<sup>ドル</sup>、ブタン400<sup>ドル</sup>となっている。

この下げの背景は需給の緩和。需要がボトムとなる7月を前に買い意欲の減退が目立っている。中東産ガス国の原油減産は続いているため、LPガス供給は引き続き低水準だ。6月のターム契約玉のアクセプタンス（船積み日指定）はカタールもアブダビも数日の遅れ、サウジでは1船が2週間以上の遅れとなった。それでも緩和感があつたのはスポット取引が低調だったからだ。とりわけインドや中国の求めてきたプロパン・ブタン混載カーゴの買いが少なかった。インドでは特にブタンの在庫高が顕著となり、ブタンに余剰観が支配的となった。4月市場と大きく異なつたのは、ブタン市況の下げが一段と進み、15~30<sup>ドル</sup>もの「プロパン高・ブタン安」市場となったことだ。

プロパンは日中韓の極東3カ国の不需要期のために大きく下げた。かつてと市場様相は変化している。7~8月には実は日本などが下期入り前の在庫積み増しに動き始める時期にあつてた。これが米国のプロパン供給量が増すにつれて「予めの在庫積み増し」の必要性が薄れてきたのだ。

7月CP値の予測は目下のところ、6月CPを更に10<sup>ドル</sup>以上下回っている。

### 3. <極東CFR市場>

極東市場は4月第4週にはプロパン561~579<sup>ドル</sup>、ブタン571~588<sup>ドル</sup>の高値であったが、5月第1週末にはそれぞれ490<sup>ドル</sup>、485<sup>ドル</sup>まで急落した。その後は下げ足が鈍つたが、それでも5月第2週にはプロパン480<sup>ドル</sup>前後、ブタン465~480<sup>ドル</sup>となり、第3週は週初めのプロパン・ブタンともに500<sup>ドル</sup>超えはあつたものの、週末には485<sup>ドル</sup>、463<sup>ドル</sup>と再び下げた。第4週には連日の大幅下げでプロパン450<sup>ドル</sup>、ブタン410<sup>ドル</sup>台半ばとなった。USGCでの濃霧・事故の遅れが完全に解消され、米国からの6月後半入着カーゴ不足懸念が一掃されたのだ。またヒューストン・シップチャネルでタンカーと船舶衝突事故があり、「また遅れ発生か!!」と市場関係者を慌てさせ、市況も一時高騰したが、大きな影響はなかつた。米国からのLPガス輸出が10万<sup>トン</sup>/日の高水準を回復したこ

とも下げにつながった（後述）。インドや中国のブタン買いの鎮静化でブタン市況低下は一段と進んだ。極東市場での成約ベース価格は「6月C Pプラス20ドル台半ば～後半」となっている。後述するAG～JPNのスポットフレートがなお高値を続けていることを考えれば、かなりの安値といつてよい。

#### 4. <モントベルビュー市場>

モントベルビュー市況はすっかり不需求期バージョン。5月第1週のプロパンが301～321ドル、ブタンが299～344ドル。第2週がそれぞれ298～316ドル、285～300ドル。第3週は305～326ドル、279～307ドル。第4週前半もプロパンは310ドル前後、ブタン280ドル台半ばだ。不需求期ということは在庫積み増し期ということ。全米プロパン在庫は3月29日のシーズン終了時期には428万トだった、5月17日現在530万トで前年同期比160.2%。3月には6～7万ト／日に落ち込んでいた輸出も、濃霧と事故の影響が払拭されて以降、10万ト／日台を回復している。順調な輸出が続くということは極東市場・アジア市場への供給が潤沢ということ。このところUSGCからのブタン輸出も増加している。これがプロパン・ブタン混載カーゴとしてインドやインドネシア向けとなっている。この両国の中東での買いが鈍っている背景には、米国からのこの両国の輸入増もある。ただし、この両国へ向かう船は喜望峰経由となる。本来は中東に集まるべき船がUSGCに集まることとなる。中東積み比べて船足も長くなる。急騰したフレートが容易に下がらないわけはここにもある（後述）。

#### 5. <スポットフレート>

3月～4月にかけてフレートが急騰し、AG～JPNが64～65ドル／ト、USGC～極東100ドルを超えたのは既報のとおり。現在はそれぞれ57ドル前後と98ドルだ。フレートが下げ渋っているのは、①上記需要低迷でインドの輸入基地が在庫高となり揚げ待ち滞船が発生している、②同じ理由でいつもに増して多港揚げとなっている、③中東積みからインド・インドネシア向けUSGC積みに振り返る割合が増加、船足が延びている、④欧州トレーダーが北西欧州向けの積みを東海岸のマーカス・フックにシフトしている—といった要因が絡み、船舶需給がなおタイトとなっているため。更に、ここに来てMB市況がプロパン・ブタンともに一段安となっていることから、極東市場との価格格差が拡大し、トレーダーが空船をUSGCに集めていることも高値要因となってきた。MBのプロパン市況が23日に287ドルとなった。

原油市況が今まさに急落している（日本時間23日午前）。WTIが58ドル／バレル、ブレントが68ドル台。この急落はLPガス国際市況を引き下げそうだ。情報収集中心！明日にでもお知らせする。米国の原油在庫増で下げたなどという単純な要因ではないだろう。6月C Pは「プロパン430ドル・ブタン415ドル」を結論と考えていたが、もっと安いのか？C P発表は29日の予定。（NYMEXのWTIの23日終値は57.91ドルだった）

（注）MB・モントベルビュー、USGC・米国メキシコ湾岸、AG・アラビア湾